

平成 25 年アユの産卵状況の特徴と漁獲への影響

寺井 章人

1. 目的

アユの漁況予報を行ううえで産卵状況の把握はその基礎データとなり、非常に重要である。ここでは平成 25 年の産卵状況の特徴を明らかにし、その後の漁獲への影響を考察した。

2. 方法

平成 25 年のアユ産卵状況調査結果と平年値(注)を比較することによって平成 25 年の産卵の特徴を明らかにした。さらに 8 月にヤナで漁獲されたアユの体型と魚群分布状況調査の結果をもとに、その特徴をもたらしした要因とその後の漁獲状況について考察を行った。

3. 結果

平成 25 年は過去には見られなかった 8 月下旬からの早期産卵が確認された一方で、9 月下旬以降の中・後期産卵は平年よりも少ないという特徴がみられ(図 1)、全体では平年の約 40%となる 45 億粒の産卵が確認された。

平成 25 年は 8 月にヤナで漁獲されたアユが平年に比べ大型であったことから(図 2)、アユ親魚も平年よりも大型であったと考えられ、さらに 8 月中旬から河川の水量が潤沢であったことなどが早期産卵の主な要因と考えられた。しかし平成 25 年は魚群分布調査の結果が常に平年よりも低位で推移したことから(図 3)、アユの資源は平年よりも少なかったと思われ、そのため産卵親魚数も少なく産卵量も平年の 40%に留まったものと考えられた。

早期生まれのアユはその後の成長が良好であることが知られており¹⁾また、初期の産卵が比較的多かったことから 12 月上旬の早期の漁獲は比較的好漁が予想された一方で、全体の資源量は例年よりも低位となる可能性が高く、それ以降の漁獲量は例年を下回ること

注) 平年値は過去 10 年から最大・最少および欠測値を除いた平均値

文献 1) 田中秀具(2002):琵琶湖産アユのふ化時期と成長・発育.滋賀県水産試験場研究報告第 50 号,p21.

が予想された。

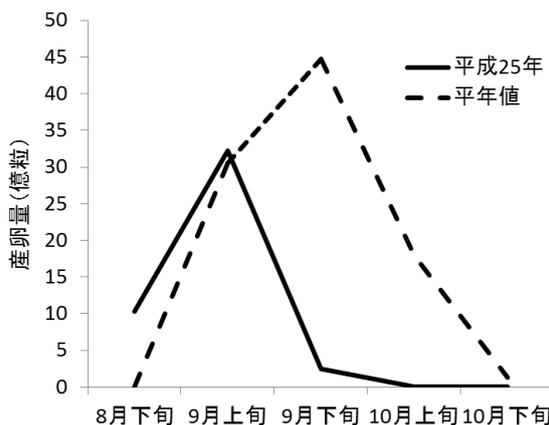


図 1 平成 25 年産卵量の推移

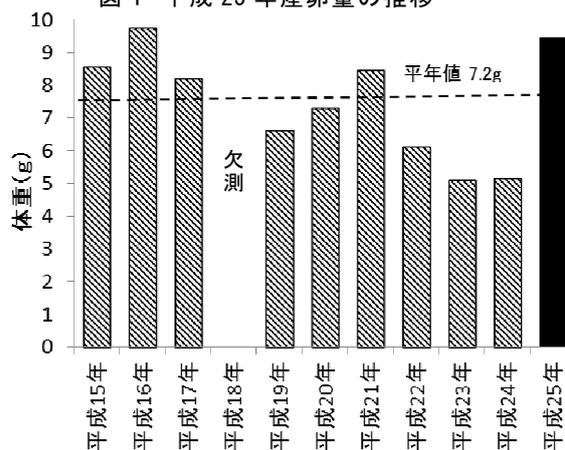


図 2 ヤナ漁獲アユ(8月)の体重の年別比較

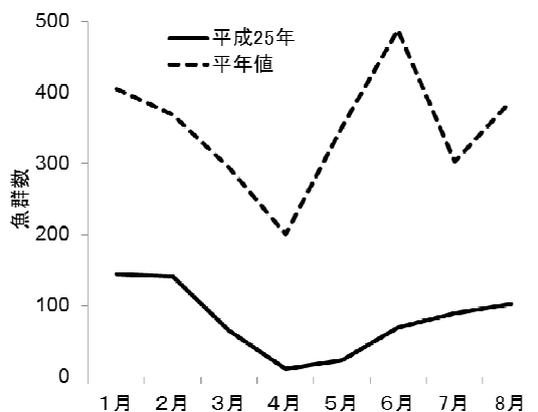


図 3 平成 25 年魚群数の推移